



Photo by Augusto Bizzi

『ROAD TO 2020～組織委員会／スポーツマネジャーからのメッセージ～』

「105周年を記念して」

今月初めにパリにて、国際フェンシング連盟（FIE）の理事会・総会及び FIE 創立 105 周年式典が開催されました。105 周年という記念すべき日であり、会場も内容も参加者も豪華な式典となりました。

これは、ウスマノフ FIE 会長のご意向とご予算で実現したものです。しかし一方で、予期せぬ大規模デモが実施され、IOC 会長や IOC メンバー、他競技の国際競技連盟（IF）会長が招待されていたこともあり、オペレーションやセキュリティにおいて並々ならぬプレッシャーがあったかと思います。このような中、滞りなく成功裏に式が終了したことは、FIE の皆さんのご尽力によるものであり、心から敬意を表します。そして今回、このタイミングにおいて、FIE で初の日本人副会長が誕生しました。

すでに複数競技において、日本人の IF 会長や副会長、そして理事の方々のご活躍されています。次いで太田雄貴会長の FIE 副会長就任は、日本のフェンシング史に刻まれる大きなマイルストーンとなります。2013 年夏に FIE アスリート委員選挙でトップ当選を果たし、同年の冬には FIE アスリート委員長選に僅差で勝利し、委員長に就任しました。その後の FIE 総会では、FIE アスリート委員長が理事会での投票権を持つ提案が可決され、理事会における意思決定の協議にアスリート委員長も参加できるようになりました。そして現役引退直後の 2016 年、FIE 理事選に当選し正理事となり、今回、急遽 FIE 副会長へ抜擢されることとなりました。

走馬灯のように目まぐるしい6年ですが、拝見するに、多くの関係者の信頼を寄せ、リーダーへの道においてスピードを加速できたのは、オリンピックやメダリストといった功績やカリスマ性だけによるものではなく、フェンシングを世界規模でなんとかしたいという愛と地道な努力によるものだと感じています。その取り組みを3点ほどご紹介します。

1 選手価値の向上

例えば、2020年東京大会の開催国枠における日本人選手の出場可能な最大人数についてです。FIE理事会にて、実はこれは簡単に削られてもおかしくないような状態でした。しかし、太田会長が自らの声で「世界のトップ選手たちと戦う日本人の活躍があってこそ、2020大会全体の成功につながる」と訴え、最大限得られる開催国枠を一枠も失うことなく死守しました。これが、全種目の選手たちに誇りやモチベーションを与え、選手個人の発信力を駆り立てました。それだけではありません。FIE理事会において、これはまさに2020年東京大会に関する初めてに近い議題だったわけですが、それを聞いていたFIE理事始めとする出席者は初めて、2020年東京大会の成功を鮮明にイメージできたのではないかと思います。

2 国際大会の誘致

理事会会議の中で大会開催地に関する議論が白熱し、たまたま出た「ヨーロッパ以外の大陸でも大会開催を」といった発言から、日本初のエペジュニアワールドカップ開催という、ハイリスクのチャンスが到来しました。実のところ、現在の世界フェンシング界において、日本はさることながら、アジアで、ランキングポイントを獲得できる国際大会の数を増やすことは、並大抵の努力と時間では叶いません。また、誘致側も、資金集め・会場確保・選手来日等、色々と課題が出てくることは否めません。しかし、太田会長はその場で即決即断でした。全ては、「一人でも多くの日本人・アジア人選手が国際大会を体感しポイントを獲得しやすくなるため」、「若手選手がたくさん日本人観客の前で臆することなく最高のパフォーマンスを発揮するため」、「一人でも多くの日本人観客に応援してもらうため」という強い思いから出た行動だったと思います。本来であれば、ヨーロッパでの会議では、日本の時差を気にしながら電話をかけ、資金集めは可能か、会場は確保できるか、選手は来てくれるかなど、ある程度の実現可能性を確認してから意思決定したいものです。即決即断は、太田会長の「覚悟と責任」として力強く捉えられました。

3 大会開催の計画

今年 12 月に行われた全日本選手権大会は、見事に成功に終わりました。成功をおさめるまで、直前まで幾多の課題や壁にぶつかってきたと思います。始めの課題は、競技フォーマットの変更です。太田会長自らがその必要性を訴え日本協会関係者に理解を求めました。次の課題である会場探しについては、都内の至る建物に自ら足を運び、会場探しに奔走していました。その土台づくりに目処がたった後、最高の舞台にするためのパートナーや人材の確保のため、太田会長自ら赴き協力をお願いをしていきました。

このようなシンプルかつストレートな取り組みを 2013 年から止まることなく続けていることが、今回、誰一人からも反対なく、満場一致で FIE 副会長を誕生させたのだと思います。

さて、FIE 副会長就任における目標はまだあります。その 1 つが 2020 年東京オリンピック大会の成功です。

開催まで残り 18 ヶ月となりました。わたしたち組織委員会フェンシングチームも、負けずとオリンピック・フェンシングを作りあげたいと思います。